

自動認識システム大賞「特別賞」

テーマ

● 奈良モデル推進補助金 広域連携準備事業 (平成27年度)

RFIDと掌静脈による共用端末の 離着席認証について

技術分野：RFID・バイOMETRICS (掌静脈)

申請会社：住民情報システムセキュリティ研究会
(奈良県天理市・御所市・平群町)

対象ユーザ：窓口業務を担当する職員

システムの概要

情報システム端末の操作者が席を立つと即時に自動的に画面をブラックアウトします。同じ操作者が戻るとハンズフリーで画面を回復し、別の操作者が着席すると生体認証の画面に遷移して、掌をかざすだけで各自のID/パスワードが自動入力され、即時に情報システムの操作が可能です。

これにより情報漏えいのリスクを軽減すると共に、端末の職員交代に要する処理時間を大幅に削減する事が可能となりました。

開発の背景

情報セキュリティ

複数の職員が交代で使用する情報システムの端末では、離席するときは必ず情報システムをログオフし、着席した際はID/パスワードを入力する必要がありますが、窓口が混雑しているときは、証明書発行のための待ち時間が長くなってしまいます。

住民の方にも、対応する職員にとってもストレスであったのですが、情報セキュリティのためには仕方ないと考えていました。



➡ 「セキュリティ」と「便利さ」はトレードオフ？

システムの特長



PC利用可能状態

- PCログイン時に、静脈認証
- 常時RFIDタグを監視



セキュリティを確保しながらユーザ交代時の自動化を実現

- **離席したとき**
即時に自動的に画面が暗転 → 操作者に一切の処理を求めません
画面の覗き見を防止します
- **席に戻ったとき**
自動的に元の画面に復帰 → 5分以上戻らないときはログオフ
業務の効率化とセキュリティを両立
- **別の者が着席したとき**
生体認証の画面に遷移 → 掌をかざすだけでID/パスワード自動入力
職員交代時の時間を削減

システム構成

【アプリケーション】

- ・富士通エフ・アイ・ピー社製

【端末側の要件】

- ・ Windows7 Professional SP1
Internet Explorer 11
- ・ USB2ポート使用

【追加機器類】

- ・ 富士通社製「PalmSecureスタンダードセンサー (FAT13M3E02)」
- ・ デンソーウェーブ社製「RFIDテーブルスキャナー (UR20-MR-01)」
- ・ SANWA SUPPLY社製「RS232Cケーブル (KRS-403XF-07K2)」
- ・ SANWA SUPPLY社製「USB-RS232Cコンバータ (USB-CVRS9)」
- ・ RFIDタグ (UHFタグ)

応用例

操作権限の無い者の使用が認められない重要な個人情報を取り扱う情報システム端末では、使用許可の際にRFIDタグを貸し出すことにより、ユーザーに意識させる事なくシステムの不正利用を防止することができます。

この利用シーンでは、RFIDタグを端末を操作するための「鍵」として使用していますが、RFIDには他にも全く発想の違う使い方もありそうだと感じています。

今後の展望

自治体の職員は日常的に高度な個人情報を取り扱います。マイナンバー制度の導入もあり、情報セキュリティに対する要求は年々高度なものになっています。

そこで「利便性とセキュリティは両立しない」という既成概念にとらわれていては、職員のストレスは高まる一方です。

私たち自治体職員の知らない間に、世の中には新しい技術が次々と生まれています。私たちの問題を解決できる素晴らしいソリューションが、他の業界ではごく普通に使われているかも知れません。

業界の垣根にとらわれず、利用者の視点で広い視野を持って足元の問題を見直し、新しい「答え」を見つけて行きたいと思います。